

Neues in Nara

Nr.60
2017年6月30日

Japanisch-Deutsche Gesellschaft Nara (JDG-Nara)

奈良日独協会 (会長 河野良文) 奈良市大安寺 2-18-1 大安寺内

Tel/0742-61-6312, Fax/0742-61-0473

<http://www.daianji.or.jp/jdgn/index.html>

編集委員：林 (hayashiy@zeus.eonet.ne.jp)、峯本 (hmine-24@m3.kcn.ne.jp)



編集委員より：会員の皆様からの積極的なご投稿をお待ちしています！

●行事予定

1. ビア・アーベント

日時：7月29日(土)17時30分～19時30分

場所：大安寺境内(雨天決行)

参加費：2,500円(学生 1,500円)

家族・友人をお誘いいただき、多数のご参加をお待ちします(詳細は同封の案内チラシを参照願います)。

2. 第16回シュタムティッシュ

9月3日(日)、中山 伸会員より「カイコとシルクの話」と題して話題提供頂く予定です(詳細、後日ご案内致します)。

●行事報告

1. 奈良日独協会・平成29年度年次総会

5月14日(日)13:30から大安寺で開催され、河野会長の開会挨拶の後、隅田憲孝理事を議長に選出。全ての議案が提案通り承認された。総会終了後、懇親会で出席された会員相互の親睦を深めた(同封の議事録をご参照願います)。



2. 奈良日独協会設立60周年記念講演会開催

5月14日(日)総会終了後、15時から大安寺獅子吼殿にて、大阪・神戸ドイツ総領事館ヴェルナー・ケーラー総領事による「現代のドイツについて」と題する講演が行われ、100人近くの参加者が熱心に耳を傾けた(左上写真)。

3. 第15回シュタムティッシュ

6月4日(日)15時から大安寺「催事棟」にて開催、会員の中祢勝美さんから「バルバラのシャンソン『ゲッティンゲン』—そのとき[独仏和解の歌]が生まれた」と題して話題を提供頂いた。歌の生まれた経緯から独仏和解に至る紆余曲折が、氏のドイツとフランス両国のご研究から読み解かれ、興味津津のお話を頂いた。



●会員だより

森田 祥子さんから

「ドイツ語 -言葉の力 人々の力-」

「どうしてドイツ語を勉強しているの？」ドイツ語学習者なら、きっと一度は聞かれるこの問いに、私は少し困ってしまおう。特にドイツ文学や音楽、歴史や文化に興味があったわけではない。むしろドイツのことを何も知らずに、偶然テレビで耳にしたドイツ語の音にひかれて、なんとなく大学でドイツ語を選択したのが始まりだった。

私は大学在学中にドイツへ1ヶ月の短期留学と10ヶ月の長期留学をした。現地の人と同じように海外で生活してみたかったからだ。私がドイツで過ごした時間は決して長くはない。しかし、それは私にとって人生の変革期と呼べるような時間となった。

私はドイツ語を話す時、日本語よりもはっきりと自分の意見を述べていることに気づいた。英語だと間違えることを恐れてしまうのに、ドイツ語だとなぜか開き直って、ただ伝えたいという気持ちだけで、間違いを気にせず話していた。

それまでは、人と違うことや自分の意見を述べることを無意識に恐れていた。しかしドイツで外国人である私が人と違うのは当然で、また周囲のドイツ人や外国人留学生が違いをまっすぐ受け止めてくれるという安心感があった。むしろ不思議なことに、国や文化が違っても共感することが多かった。

それだけ開放的な気持ちになれたのは、ドイツ語の言葉の力とドイツで出会った人々に恵まれていたおかげだ。

留学から何年もたった今、たくさんの人々によくしていただいたご恩を忘れずに、これから出会う人々に恩返しをしていきたい。



クリスマスに招待されて



留学生たちとエアフルトで



ミュンヘンで大ジョッキ

●新入会員

入江雄一郎さんと横山 香さんの2名(奈良市)が入会されました。